



発 行
(社)岩手県労働者福祉協議会
盛岡市大沢川原2丁目2番32号
TEL (019) 654-3082
発行責任者 砂金文昭
編集責任者 佐々木誠志

No.143 2009年9月1日発行



砂金文昭会長

第53回 通常総会 開催

勤労者のセーフティネット としての労福協運動の推進を!!

(社)岩手労福協は、6月24日(水)第53回通常総会を「岩手労働福祉会館」において開催し、2008年度事業報告、新役員の選任などについて承認しました。

総会は、小野寺副会長の開会挨拶の後、議長に亀田徳夫代議員(東北労働金庫岩手県本部)を選出し進められました。

はじめに労福協を代表して砂金会長より、昨秋からの金融危機が世界経済に与える影響は計り知れないものがあり、結果として労働者・勤労者を取り巻く環境は非常に厳しいものとなっている。県内の勤労者に関わるセーフティネットとしてライフサポートセンターいわてを開設し、1年間を取り組んできたことを報告し、勤労者がこの岩手で安心して暮らせることをめざしますと挨拶をしました。引き続き、来賓として伊藤昇太郎岩手県商工労働観光部雇用対策・労働室長、沼田秀彦盛岡市商工観光部企業立地雇用課長補佐、伊藤瞬一社団法人岩手県経営者協会専務理事より順に祝辞を受けました。続いて各方面から寄せられた激励の祝電・メッセージが披露されました。



議案審議では、第1号議案2008年度事業報告と第2号議案2008年度会計について佐々木専務理事が、監査報告は柴谷監事が、第3号議案役員選任について小野常務がそれぞれ提案し、質疑の後、議案が承認されました。2009年度事業計画と2009年度予算については、第52回総会で承認済みとの報告がされ、全議案とも満場一致で承認されました。

この後、退任された高橋克公理事が退任挨拶、その後、新役員全員が整列し、砂金会長は新しい役員体制で厳しい環境の下、勤労者のセーフティネットとしての労福協運動を取り組んでいくと決意を述べました。

最後に来内副会長の閉会の挨拶にて第53回通常総会が終了しました。

2009年度の活動の基調

1. これまでの運動を基調としながら時代に即応した運動展開を進めます。
2. 事業団体、労働団体との連携による自主福祉活動の充実に努めます。
3. 勤労者の暮らしにかかる「ライフサポート事業」の充実をはかり、勤労県民の暮らしの安心・安全をめざします。
4. 地区労福協・労働協運動の活性化による地域の運動の展開と、組織の強化をはかります。
5. 関係行政機関と連携しながら、福祉に対する政策・制度要求の実現をめざします。
6. 新公益法人制度の研究を進めます。
7. 加盟会員間の連携を強め、労福協の力量を高めます。

(社)岩手県労働者福祉協議会2009年度役員

役職名	氏名	所 属
会 長	砂 金 文 昭	再 連 合 岩 手
副 会 長	小野寺 正 志	再 東北労働金庫岩手県本部
〃	来 内 広 幸	再 平和環境岩手県労組センター
〃	軽 石 義 則	再 岩 手 友 愛 会
専務理事	佐々木 誠 志	再 全 労 済 岩 手 県 本 部
常務理事	小 野 務 務	再 連 合 岩 手
理 事	下斗米 義 孝	再 東北労働金庫岩手県本部
〃	佐々木 敏 男	再 全 労 済 岩 手 県 本 部
〃	浦 山 正 年	再 (財) 岩 手 県 民 共 済 会
〃	矢 神 彰 男	再 岩手県消費者信用生活協同組合
〃	昆 誠	再 (財) 岩手労働福祉会館
〃	豊 巻 浩 也	新 岩手県学校生活協同組合
〃	藤 井 明 彦	再 UIゼンセン同盟岩手県支部
〃	八 幡 博 文	再 NTT労組東北総支部
〃	千 葉 進	再 岩手県高等学校教職員組合
監 事	吉 田 恵 一	再 全 労 済 岩 手 県 本 部
〃	柴 谷 正 孝	再 運輸労連岩手県連合会

選出日 2009.6.24第53回通常総会

【退任役員】

この度、第53回通常総会をもって、理事を退任することになりました。

在任中は、公私にわたりご指導ご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

高 橋 克 公 理事 (岩手県学校生活協同組合)

2009年度具体的な事業計画

(いずれも詳細は後日文書でご案内いたします。)

□労働者福祉に関する事業

〈退職準備サポート研修会〉

開催地区 盛岡地区 11月7日(土)「岩手労働福祉会館」
北上地区 11月8日(日)「さくらホール」
気仙地区 11月15日(日)「気仙地区教育会館」

〈家庭介護セミナー〉

開催地区 盛岡地区 2010年3月1日(土)
奥州地区 2010年3月8日(土)

□労働者の教育、文化、スポーツ及び交流に関する事業

〈第20回岩手労福協会長杯ゴルフコンペ〉

日時 10月17日(土)
花巻市石鳥谷町 盛岡南ゴルフ倶楽部

〈第21回岩手県勤労者野球大会〉

日時 10月25日(日)
雫石町鶯宿 町営グラウンド
(南部富士見ハイツ隣接)

〈第28回岩手県勤労者美術展並びに第13回親子ふれあい写真展〉

日時 11月19日(木)から11月22日(日)
盛岡市民文化ホール(マリオス)

〈第14回岩手県勤労者ボウリング大会〉

日時 2010年2月20日(土) 盛岡市

中央労福協2009年度全国研究集会

〔テーマ〕「21世紀の労働者福祉運動の在り方と労働(雇用)を考える」

2009年6月4日(木)・5日(金)に、中央労福協主催で福岡市の「ソラリア西鉄ホテル」において、「21世紀の労働者福祉運動の在り方と労働(雇用)を考える」をテーマに、全国の各県労福協、事業団体、連合の代表者ら参加者277名で、2009年度全国研究集会が開催されました。

1日目は笹森清中央労福協会長が挨拶、特別講演として、宮本太郎北海道大学大学院教授より、「労働を中心にした福祉型社会の展望」と題し、これからは労働を中心とした福祉型社会が必要と提起。次に基調講演1シンポジウムとして「労福協60周年と連合20周年を迎えた今後の進むべき考察」をテーマに各パネラーがそれぞれの組織の流れや取り組み方針を提起し、課題を克服しつつ、今後の活動について生かすことを提起しました。

2日目朝からは、基調講演Ⅱとして、湯浅誠NPO法人自立生活サポートセンターもやい事務局長が、「いま“はたらく”が危ない 働くことが壊されていく一派遣村からみた日本社会―」をテーマに講演した。年越し派遣村の実態から仕事のない苦しさや路上生活者の実態を提起しました。

続いてシンポジウムとして「生活・労働、雇用、非正規問題を考える」をテーマに各パネラーが、各組織での活動の問題点や取り組み事例を報告し、とりまとめとして各組織が原点に返り活動していくことが重要と確認しました。

今回の研究集会には、岩手労福協から砂金会長、佐々木専務理事、武藤職員が参加しました。

「雇用と就労・自立支援」カンパ活動(ドブ太カンパ)について 32,357円の協力 ありがとうございました。

7団体(東北労金岩手県本部、全労済岩手県本部・岩手県民共済会・岩手県消費者信用生協・岩手労働福祉会館・岩手県学校生協・労福協)の役職員から総額32,357円の協力をいただきました。ありがとうございました。

2009年度第1回 地区労福協・勤労協代表者会議 を開催

8月1日(土) 岩手労働福祉会館4階会議室において、2009年度第1回地区労福協・勤労協代表者会議が開催されました。代表者会議には全14地区の代表者が出席し、県労福協の2009年度における活動方針や各地区の課題等について熱心に協議が行われました。

〈出席者〉

地 区	役 職 名	氏 名	地 区	役 職 名	氏 名
盛 岡	事務局長	設 楽 健 司	東磐井	事務局長	橋 階 祐 司
岩 手	事務局員	伊 藤 千 秋	遠 野	会 長	佐 藤 浩 彦
花 巻	事務局長	阿 部 正 介	気 仙	会 長	中 嶋 敬 治
北 上	幹 事	高 橋 堅	釜 石	事務局長	鈴 木 圭
胆 沢	会 長	安 部 皓 三	宮 古	幹 事	坂 下 正 典
江 刺	会 長	佐 藤 潔	二 戸	議 長	坂 本 敏 美
一 関	副 会 長	木 坂 範 夫	久 慈	会 長	佐々木 貴

ライフサポートセンターいわて 第2回 定期評議員会開催

6月24日(水)、ライフサポートセンターいわて第2回定期評議員会が岩手労働福祉会館で開催されました。設立から1年が経過し、基礎を固めてきた活動を振り返り、2009年度方針を確認しました。評議員会では、砂金理事長の挨拶の後、来賓として黒沢秀之岩手労働局総務部長、川村政司岩手県商工労働観光部雇用対策・労働室労働課長から激励のご祝辞をいただきました。

活動計画には、事業を推進するために、①相談体制の充実、②広報活動の充実などが織り込まれました。

●●●●●●● ライフサポートセンターいわて ●●●●●●●

昨年5月16日からサービス開始したライフサポートセンターいわての事業概況報告

(1) 2008年度の相談状況について(2008年5月から2009年3月末までの11ヶ月間)

① 総件数と相談内容別件数

総数は94件で、LSCいわてが90件で95.7%、LSC北上が3件で3.2%、LSC一関が1件で1.1%です。月平均8.5%件で、主な相談内容は、多い順に①生活相談47件で50.0%、②法律相談19件で20.2%、③金銭相談14件で14.9%、④労働相談7件で7.4%、⑤社会保障4件4.3%、⑥子育て3件で3.2%です。

② 年齢別件数

①40歳代 22件で23.4%、②50歳代 19件で20.2%、③60歳代 15件で16%、④30歳代 10件で10.6%、⑤70歳代 6件で6.4%、⑥年齢不明者 19件です。

③ 男女別及び来所・電話相談件数

男性 36件38.3%、女性 58件61.7%。来所 26件、電話 68件です。

④ ライフサポートセンターを知ったルート

①行政の広報誌が31件で33%、②新聞広告が17件で18.15%、③電話帳が10件で9.4%、④ポスター・チラシが9件で9.6%、⑤紹介が8件で8.5%です。

(2) 紹介先について(多い件数のみ)

①弁護士10件(離婚問題・子供のケンカ・遺産相続等)、②信用生協7件(多重債務)、③県福祉総合相談センター5件(福祉・介護・疾病)、④司法書士4件(多重債務)

(3) 相談状況表

①総相談件数

地 区	合 計	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
いわて	90	2	2	2	2	10	2	29	8	8	17	8
北 上	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0
一 関	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
計	94	2	3	2	2	10	3	29	8	9	18	8

②相談内容別

内 容	件数	%	いわて	北 上	一 関
労働相談	7	7.4	7	0	0
法律・税務相談	19	20.2	18	1	0
子育て相談	3	3.2	3	0	0
金銭相談	14	14.9	13	1	0
生活相談	47	50.0	45	1	1
社会保障相談	4	4.3	4	0	0
計	94	100.0	90	3	1

③男女別

性 別	件数	%	いわて	北 上	一 関
男	36	38.3	34	2	0
女	58	61.7	56	1	1
計	94	100.0	90	3	1

④LSCを知ったルート

ル ー ト	件数	%
行政の紹介	2	2.1
行政の広報誌	31	33.0
生活便利帳	5	5.3
新聞	17	18.1
電話帳	10	10.6
ポスター・チラシ	9	9.6
紹介	8	8.5
不明	12	12.7
計	94	100.0

⑤年齢別男女別件数

年 齢	合計	%	男	女
10歳代	1	1.1	0	1
20歳代	2	2.1	1	1
30歳代	10	10.6	5	5
40歳代	22	23.4	12	10
50歳代	19	20.2	6	13
60歳代	15	16.0	3	12
70歳代	6	6.4	2	4
不明	19	20.2	7	12
計	94	100.0	36	58

⑥市町村別件数

市町村	盛岡市	滝沢村	矢巾町	紫波町	雫石町	八幡平市	花巻市	北上市	奥州市	一関市	山田町	不 明	合 計
件 数	68	4	1	2	1	1	2	6	2	3	1	3	94件
%	72.3	4.2	1.1	2.1	1.1	1.1	2.1	6.4	2.1	3.2	1.1	3.2	100.0%

悩んでいませんか?

仕事 組合 お金 法律 家庭

●まずは気軽にお問い合わせを

フリーダイヤル サポート
0120-804-340

■相 談 日：月曜日～金曜日(祝日除く)

■相談時間：午前10時～午後5時

■そ の 他：休日・時間外の相談は別途対応

■相談および取り次ぎは原則無料。面談相談可。

※専門家等に相談する場合は、別途料金がかかる場合があります。



ライフサポートセンターいわて

盛岡市大沢川原2-2-32 岩手労働福祉会館4F
社団法人 岩手県労働者福祉協議会内

2009年県消費者大会・講演会のお知らせ

■日時 2009年10月30日(金) 13:10～

■会場 岩手教育会館 大ホール

■講演 内 橋 克 人氏(経済評論家)

「人が人らしく生きられる社会をめざして」

◇お問い合わせは 労福協 TEL 654-3082

北上地区にもアドバイザー配置 9月1日(火)から

県内の勤労者の悩みごとや相談の受け皿づくりを目的としたライフサポートセンターいわて事業の開始後、1年が経過しました。9月1日から北上センターにもアドバイザーを配置します。

＜事業の目的＞

ライフサポートセンターいわては、少子高齢化社会や団塊世代の大量退職とした、社会構造の変化にあって、県民・勤労者の不安を解消し「ゆとり豊かさ」を追求するため、協力して県民の暮らし全般にかかわる支援活動を目的とします。

＜センター＞

サービスセンター	所在地	アドバイザー
ライフサポートセンターいわて	盛岡市大沢川原 2-2-3 岩手労働福祉会館内	木下 馨
ライフサポートセンター北上	北上市鍛冶町 1-3-7 北上和賀労福協会館内	岡 武 雄
ライフサポートセンター一関	一関市山目中野 132 西磐井教育会館内	小野寺 悦子

＜時 間＞ 平 日 10:00～17:00

＜相談内容＞ 労働相談・法律相談・子育て相談・年金相談・健康相談・多重債務相談・消費者相談・生活設計相談・借入運用相談・共済保障相談

※相談・取次は、原則無料ですが専門家に相談した場合、別途料金がかかる場合がありますので、ご了承ください。

＜電話＞フリーダイヤル 0120-804-340

労 金

1. 総会報告

東北労働金庫第6回通常総会が、2009年6月25日(木)仙台市江陽グランドホテルにて開催されました。総会では馬目理事長の挨拶、来賓として各県労福協、連合、全労連の代表者の方よりご臨席を賜り、代表して労働者福祉北部協議会会長の安達忠一様よりご祝辞を頂戴した後、第3期中期経営計画の初年度であった2008年度に係る業務報告が行われました。

続いて「第1号議案 第58期剰余金処分(案)承認の件」より議案審議に入り、第2号議案の「2009年度事業計画(案)承認の件」は、提案後「①総合店舗政策、②ポイント景品制度、③有価証券による損失」等について活発な意見、質疑応答が行われた後、最終的には「当初提案の内容の中で、総合店舗政策については引続き検討を重ねていくこととする」議長提案が行われ、満場の拍手で承認をされています。第3号議案「合併準備委員会への参画の件」、第4号議案「役員

補欠選任の件」、第5号議案「退任理事に対する退任慰労金贈呈の件」については意見、質問もなく、それぞれ承認されました。

最後に今総会にて選任された3名の新理事の就任の挨拶、退任となる2名の理事より挨拶があり、通常総会を終了しました。

2. 2009年度の主要取り組み課題

「第3期中期経営計画」の中間年度である2009年度は、「店舗政策」、「ポイント景品制度」、「全国統合」の3点が大きな課題と位置づけ、取り組みを強化してまいります。

一つ目として「店舗政策」については、現在ご利用いただいている会員をはじめ、店舗設置の際ご尽力いただいた友の会や地域の方々などからいろいろなご意見をいただく中で、「ろうきん」の置かれている厳しい環境をご理解いただき、十分な議論を行っていく必要があると考えております。

二つ目の「ポイント景品制度」については、制度導入から3年が経過しており、制度発足当初の目的が一定程度クリアされたことなどから、新たな代替制度による会員還元を実現する方向

で進めたいと考えております。

最後に「全国統合」については、2012年4月の統合を視野に入れ前向きに進めながら、今後は会員の皆様の声を反映させるべく、積極的に提言を行っていきたいと考えております。

全 労 済

1. 総代会開催報告

全労済岩手県本部第34回・岩手労済生協第52回通常総代会が終了しました。

全労済岩手県本部第34回ならびに岩手労済生協第52回通常総代会が7月30日に岩手労働福祉会館において開催されました。

柴谷副理事長の開会挨拶ののち、木村正美総代(全国林野関連労働組合)、千葉伸行総代(東北電力労働組合岩手県本部)を議長団に選出し議事が進行されました。

理事会を代表し、佐々木理事長が昨年発生した二度の大きな地震による共済金の支払い状況や、約60年ぶりに改正された生協法について、さらに岩手県本部として初めて期首割れとなった事業状況等、2008年度の主な活動内容に触れながら挨拶されました。また、ご来賓の方からのご祝辞を頂戴し、引き続き祝電・メッセージの披露を行いました。

議案審議の前に、推進委員会で三役を長年務めていただき、この度退任された役員の個人表彰が行われました。議案審議では、吉田専務理事から「2007年度・2008年度(第5期計画)岩手県本部統合事業経過報告承認の件」をはじめとする提案が行われ、真摯な審議を経て、全議案とも原案どおり承認されました。

また併せて役員改選も実施され、5名の理事が退任され、新たに5名の新理事が選任されました。

2009年度の活動は、総代会で確認された「2009年度～2010年度岩手県本部統合事業計画」をもとに、引き続き支所と各地区推進委員会との連携による「保障設計運動」の取り組み、また「団塊世代」の取り組みとして退職後の新たな保障設計の提案活動、退職者のフォローアップの対応を強化していきます。

組合員からより一層の信頼・支持される全労済を目指し各種共済の推進展開を図っていきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

2. 2009年度の主要取り組み課題

「2009年度～2010年度岩手県本部統合事業計画」

下記項目を重点政策課題として設定し、次年度の活動計画を策定いたしました。

- (1) すべての業務の革新による業務品質のさらなる向上
- (2) 協力団体と組合員一人ひとりの期待に応える事業推進活動への改革
- (3) 協同組合価値の向上に向けた事業・組織運営の再構築・ガバナンスの強化
- (4) 全労済全体の人材の育成強化
- (5) 激変する環境変化への迅速な対応を可能とする経営構造への転換
- (6) 社会的責任のさらなる発揮と21世紀構想の実現

新 役 員

役職名	氏 名	所 属
理事長	佐々木 敏 男	自治労岩手県本部
副理事長	柴 谷 正 孝	運輸労連岩手県連合会
専務理事	吉 田 恵 一	全労済岩手県本部
理 事	宮 川 寿	東日本旅客鉄道労働組合盛岡地方本部
〃	軽 石 義 則	東北電力労働組合岩手県本部
〃	佐 藤 浩 之	岩手県交通労働組合
〃	藤 井 明 彦	UIゼンセン同盟岩手県支部
〃	砂 金 良 昭	岩手県教職員組合
〃	森 茂	全自交労連岩手地方本部
〃	菊 池 淳	J P 労組岩手連絡協議会
〃	熊 谷 訓 一	盛岡建設労働組合
〃	村 上 純	新興製作所労働組合
〃	及 川 志 郎	岩手東芝労働組合
〃	塚 本 静 男	富士通労働組合岩手県支部
〃	中 澤 智	東北日本電気労働組合
〃	川 畑 勝 明	岩手開発鉄道労働組合
〃	三 浦 一 泰	新日本製鐵釜石労働組合
〃	芳 賀 勝 吉	三陸病院労働組合
監事長	森 隆 行	ユアテックユニオン岩手支部
監 事	千 葉 進	岩手県高等学校教職員組合
〃	田 中 廣 美	交通労連岩手県支部

退 任 役 員

役職名	氏 名	所 属
理 事	佐 藤 淳 一	岩手県教職員組合
〃	阿 部 智	J P 労組岩手連絡協議会
〃	田 村 宗 弘	盛岡建設労働組合
〃	山 谷 一 夫	岩手東芝労働組合
〃	熊 谷 典 昭	三陸病院労働組合

ハピネス共済会

1. 評議員会開催内容

ハピネス共済会(財)岩手県民共済会)第39回評議員会は、7月24日(金)午前10時30分より盛岡市の岩手県高校教育会館大ホールにて行われ、第41期事業・決算報告及び第42期事業計画・予算等が審議されました。

事業報告概況

(1) 共済事業

医療共済の保有契約は、加入団体の構成員の減少や解約などによる減少が続いており、前年度比5.3%の減少となりました。

また、共済金の正味給付率は70.2%で、保有契約の減少及び火災共済給付の増加を主要因として、前年度比7.1ポイントの増加となっています。

(2) 公益福祉事業及び会員サービス事業

「ハピネス健康相談室」の相談件数は前年度に比べ減少となり、低調な利用状況となりました。このほか「岩手県生活問題研究会」、「提携宿泊施設宿泊費助成」、「小学生クラス対抗30人31脚岩手大会への特別協賛」を継続して行いました。

(3) 施設事業

「山王ハイツ」についてはテナント空室による入居募集を継続的に行ったほか、賃貸マンション「サンハピネス」は新たに駐輪場を設置して居住環境の改善を図りました。「ホテルサンノウ」は、ネット予約の有効活用や宿泊利用提携の協定締結により利用者の拡大に努めましたが、宿泊者数・宿泊収入とも前年度より減少となりました。

2. 2009年度事業計画

公益法人制度改革の施行が昨年12月1日に始まり、平成25年11月30日までの間に新法人への移行を行わなければなりません。また、新法人移行と同時に保険業法が全面適用となり、弊会事業の変革を迫られることになります。

この間、保険業法の主務官庁である金融庁の窓口機関である東北財務局を4回訪問し、弊会の進むべき道について指導を求めてきましたが、明確な回答を得られませんでした。さらに、施行日(平成20年12月1日)を過ぎた12月16日にも訪問し、加入会員の皆様の不利益を回避するために「既契約者の管理のみを行う業務」に

よる事業継続を要望してきましたが、「現在、公益法人における共済事業の実態を調査中である」との回答に終始され、明確な回答を得られませんでした。

このまま推移し、「既契約者の管理のみを行う業務」までもが否定されますと、加入会員の皆様の不利益は計り知れないものとなることから、現在、類似共済を取り扱っている事業団体へ「医療共済ハピネス」・「新しいぶき」・「タス+かるじゃ」の3共済種目について受け皿を要請しているところです。具体化されしだい、理事会等の機関会議で協議のうえ、臨時評議員会の開催も視野に入れた会議等で決定していきます。

なお、弊会の今後につきましては、理事会において数名の理事及び有識者である弁護士・会計士等の参加を求めた「公益法人制度改革・保険業法改正対策検討委員会(仮称)」を設置して検討していくこととします。

事業計画については、次の2項目を柱としております。

(1) 共済事業と施設事業の継続的展開

共済事業につきましては、3共済種目の受け皿が提示された内容を検討のうえ、展開していくこととします。

(2) 公益福祉事業の継続的展開

ハピネス共済会役員名簿

役 職 名	氏 名	所 属
理 事 長	菅 生 哲 修	岩手県開発鉄道労働組合
専務理事	浦 山 正 年	財団法人国労会館盛岡地方部
理 事	小水内 長 功	全日通労働組合岩手支部
理 事	柏 英 壽	エヌティティ労働組合 東北総支部岩手分会
理 事	小 山 剛 史	岩 手 県 交 通 労 働 組 合
理 事	千 葉 伸 行	東北電力労働組合岩手県本部
理 事	谷 藤 和 彦	新興製作所労働組合
理 事	千 葉 進	岩手県高等学校教職員組合
理 事	泉 山 忍	東日本旅客鉄道労働組合 盛岡地方本部
理 事	工 藤 和 男	岩手中央タクシー労働組合
理 事	高 橋 克 公	岩手県学校生活協同組合
理 事	盛 田 明 広	自治労共済岩手県支部
監 事	佐々木 誠 志	社団法人岩手県労働者福祉協議会
監 事	下斗米 義 孝	東北労働金庫岩手県本部

信用生協

1. 総代会報告

信用生協第40期通常総代会は、8月28日に総代定数150人中101名の参加で開催され、生活再建支援基金の設置を含む全議案が賛成多数で承認されました。

第40期(2008.6～2009.5)は、消費者救済資金貸付制度が創設20年を迎えるという節目の年にあたり、また、60年ぶりに改正された生協法による新たな貸付事業が始められた年でもありました。

また、岩手県と弁護士会による多重債務無料相談体制の整備も進み、市町村での相談体制の拡充が図られたことにより、当生協への多重債務相談は4千件と前年を1千件下回りましたが、他方では、未曾有の不況を背景に生活苦による家賃・水光費・授業料等の生活資金の相談が増加し、結果的に5年連続で相談件数は5千件を超えるに至り、なおも増え続けると予想されます。

2. 2009年度の取り組み

2009年度は創立40年を迎えます。今日、多重債務問題は貧困問題に焦点が移ってきており、地域の身近な暮らしの相談センターとして信用生協の果たす役割への社会的期待は高まっております。事業・組織運営を今日の経済社会環境の変化に迅速に対応しつつ、設立の原点である「助け合いの精神による暮らしの向上につながる相談と貸付事業」を力強く進めることが求められています。

NPO法人いわて生活者サポートセンターとの連携で、「くらしとお金の安心相談窓口」を盛岡以外の北上・釜石・一関の各センターに広げます。また、県内市町村と連携して実施している「多重債務相談会」も名称を「くらしとお金の安心相談会」に改称し、くらしと家計に関する総合相談を行います。

信用生協役員名簿

役職名	氏 名	略 歴 等
理事長	矢 神 章 男	元岩手県交通労組委員長
専務理事	上 田 正	信用生協元常務理事、統括マネージャー
理 事	伊 藤 慶 子	岩手県消費者団体連絡協議会 事務局長
理 事	小水内 長 功	全日通労働組合岩手県支部書記長・NPO法人いわて生活者サポートセンター監事
理 事	佐 藤 庄 三	岩手県交通労働組合委員長
理 事	宮 田 恒 美	信用生協サポート倶楽部会長
理 事	高 橋 薫	富士大学経済学部 教授
理 事	山 崎 芳 樹	社会福祉法人 河北会 理事
監 事	阿 部 征 吾	阿部税理士事務所 税理士
監 事	渡 辺 正 和	渡辺・山崎法律事務所 弁護士

今後、改正貸金業法の全面施工や割賦法改正等により「借りられなくなった人」へのセーフティーネット貸付の必要性はますます高まると予想され、生活再建資金貸付制度を現行の盛岡市との提携だけでなく、来年度県内全市町村の預託による公的制度とするための準備を行い、くらしの相談と一体となった貸付制度を充実してゆきたいと考えております。

その他、自殺防止対策事業の問題に悩む方への親身で迅速な相談体制を確立します。

労働福祉会館

1. 評議員会報告

2009年6月18日(木)に第49回評議員会を開催し、2008年度の事業報告並びに決算について審議し、2009年度の事業計画並びに予算案等が承認されました。

2008年度の事業収入は、対前年比97%の112,000千円となりました。

これに対し、事業支出は対前年比95.7%の112,077千円となり、2009年3月期の収支差額は、77千円の損失となりました。

2. 2009年度の主要取り組み課題

- ① 会議部門 1,215万円の売上確保
- ② 宴会部門 4,565万円の売上確保
- ③ 仕出部門 2,270万円の売上確保

事業収入は対前年比100.6%を確保することとし、事業支出は仕入原価を対前年比102.7%、販売費及び一般管理費を対前年比98.8%以内に抑制することとします。

3. 公益事業

社団法人岩手県労働者福祉協議会の運営する文化事業を共催することとし、10万円の範囲内で実施します。

岩手労働福祉会館役員名簿

役職名	氏 名	所 属
理 事 長	来 内 広 幸	(社)岩手県労働者福祉協議会
副理事長	小 野 務	連 合 岩 手
副理事長	佐々木 誠 志	(社)岩手県労働者福祉協議会
常務理事	昆 誠	(財)岩手労働福祉会館
理 事	藤 井 明 彦	連 合 岩 手
理 事	八 幡 博 文	連 合 岩 手
理 事	菊 池 智 尋	平和環境県労組センター
理 事	千 葉 伸 行	岩 手 友 愛 会
理 事	小野寺 正 志	東北労働金庫岩手県本部
理 事	佐々木 敏 男	全労済岩手県本部
監 事	三 浦 清	連 合 岩 手
監 事	下斗米 義 孝	東北労働金庫岩手県本部

学 校 生 協

1. 第61期通常総代会開催

08年度は生協法が改訂され、学校生協でも定款を変更し新しい法律に基づいて通常総代会の開催運営にあたりました。

改訂生協法では、理事会の構成、監事の責任、組合員の資格、出資の適正化、責任の所在など組合員相互の関係で行ってきたことが、一般の会社と同じく不特定多数との関わりでの一般的な経営責任を問われる事となり、個々人の繋がりで構成された仲間同士の集まりでは立ち行かなくなりました。共済も同じく、一般の保険と同様に保証責任を金額で準備することや、不利益条項の説明責任が明確化される事による、組合員同士の誘い合いの禁止など、共済生協本来の助け合いができなくなりました。

私達の学校生協は、地域から職域生協への条件整備、退職組合員への対応、員外利用に向けた対策、共済生協との業務提携など、新法への対応策を進めてきました。

事業は、生協商品に対する信頼をゆるがす事件が発生し、主力である「Week」の利用が大きく減少する中、県職員給料の定率減額による影響が、日用品などに顕著に表れ、購入単価が減少し、年度当初より厳しい状況でした。更に、追い打ちをかける様に石油商品の異常な高騰から、ガソリンをはじめ日常品の値上げにより、事業は供給計画を達成する事ができましたが、経常剰余金を確保することが大変に厳しく、決算は欠損となりました。なお、欠損金は準備金を取り崩しして解消することが承認されました。

このような厳しい経済環境の中でも、職員はもちろんのこと理事や生協係による利用拡大が積極的にすすめられ、ファミリー月間の利用が大きく伸長し、また学習機会として位置付けている地区総代会も高い出席率で安定するなど、組合員の運動参加が前進しております。通常総代会では、この確かな前進をベースにした「もう一品の利用」運動を更に展開していくことを確認しました。

2. 2009年度の方針と計画

事業と運動の方針

- ・組合員の運営参加と活性化をすすめ「わたしの生協」をめざします。
- ・組合員のくらしや学校と地域に密着した運動を強め、社会に貢献できる学校生協をめざします。

- ・組合員サービスの向上とキーワードを大切にしたい事業の再構築をめざします。
- ・経営の健全化に向けて構造改革に取り組み、学校生協運動を担う人材育成をします。

09年度は3カ年計画の最終年度として計画の達成に取り組みます。「みんなの生協からわたしの生協」の運動をさらに推進し、「もう一品の利用」運動へ繋げるにより、さらに具体的な運動参加が進められると考えています。今後は、より積極的に全員利用の取り組みを展開して、09年度計画を達成していきたいと考えています。

今後の課題として、退職者の再組織化や現職者の組織拡大があります。特に、現職者における「地区総代会」と同じ主旨で開催する「学生協友の会(仮称)」を退職者の生協運動への参画と学習の場として位置付けて開催して、退職者の組織拡大と利用拡大に取り組みたいと思っています。そして学校生協運動を通じて、現職者と退職者が一体となった事業と運動に取り組みます。

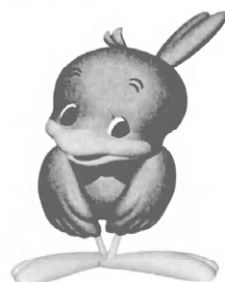
私達が取り組んでいる生協運動は、弱者である個人を守るためにみんなで小さな力出し合って、自分とその隣人を経済的に守ることだと思っています。この運動は経済が混迷している今こそ大切であり、学校職場からも退職者の住んでいる地域からも必要な運動です。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

学 校 生 協 役 員 名 簿

役 職 名	氏 名	選出母体 (常勤先等)
理 事 長	豊 巻 浩 也	小中学校 (岩教組本部)
副理事長	吉 田 道 一	中学校長会 (仙北中)
副理事長	千 葉 進	高等学校 (高教組本部)
専務理事	高 橋 克 公	小中学校 (学校生協)
常務理事	大 坪 充 幸	学校生協
常務理事	村 上 照 熙	退教互
理 事	佐 藤 マユミ	退教互
理 事	千 葉 研 二	高校長協会 (盛岡一高)
理 事	熊 谷 セツ子	小学校長会 (米内小)
理 事	菊 池 智 尋	小中学校 (岩教組本部)
理 事	小 西 寛	高等学校 (高教組本部)
理 事	小野寺 正 宏	高等学校 (高教組本部)
理 事	三 又 恭 次	盛岡紫波 (支 部)
理 事	遠 藤 登	岩 手 (支 部)
理 事	高 橋 克 典	稗 貫 (支 部)
理 事	高 橋 智 也	和 賀 (支 部)
理 事	中 澤 元	胆 江 (支 部)
理 事	三 宅 茂 雄	い わ い (支 部)
理 事	新 沼 寿 康	気 仙 (支 部)
理 事	小 國 博 文	釜 石 (支 部)
理 事	佐々木 信 也	遠 野 (支 部)
理 事	坂 下 正 典	下 閉 伊 (支 部)
理 事	皆 川 孝 弘	九 戸 (支 部)
理 事	金田一 文 紀	二 戸 (支 部)
特定監事	砂 金 良 昭	小中学校 (岩教組本部)
監 事	小 原 俊 郎	教 頭 会 (城西中)
監 事	上 田 高	高等学校 (盛岡工定時)
監 事	米 澤 弥志夫	小中学校 (羽場小)
監 事	高 橋 広 道	事務職研協 (人首小)

ろうきんは 「住宅ローンのお借換え」で 皆様の家計を応援します。

この時代に暮らすあなたを、
低利なローンで応援したい。



現在ご利用の住宅ローンを、 見直してみませんか？

住宅ローンは金融情勢や金利動向、ライフプランの変化にあわせて見直すことができます。現在ご利用の住宅ローンを別の条件の「ろうきん住宅ローン」に借換え、毎月の返済額や総返済額を軽減することで、家計にゆとりが生まれることもあります。

現在ご利用の住宅ローン・・・

- ☑適用金利の上昇で、返済額が増えるんだけど…
- ☑変動金利になって心配…
- ☑今後の金利上昇による返済計画が不安…
- ☑家計収入やライフイベント（生活費、教育費、医療費 etc）の支出もあり住宅ローンを見直したい…

住宅ローンの借換えにより、

現在より低利な住宅ローンに借換え、返済期間を調整することで返済額を軽減できる場合があります。

現在の返済額を維持しながら、返済期間を短縮することで支払い利息を圧縮できる場合があります。

変動金利型や短期の固定金利選択型から長期の固定金利選択型へ借換えることにより、金利変動の不安を少なくすることができます。



東北労働金庫

0120-1919-62（受付時間：平日午前9時から午後5時）
http://www.tohoku-rokin.or.jp 【2009年1月5日現在】

健康に不安のある方をサポート

いきいき応援 2009年6月新登場!

個人長期生命共済 引受緩和型更新プラン

高血圧・糖尿病・ぜん息・胃潰瘍などで治療を受けている方のために、新登場!

満40歳から満70歳までお申し込みいただけます。医師の診査は必要ありません。

■保障内容（入院日額5,000円型の場合）

病気やけがで入院したとき	(2年目以降) 日額 5,000円 (1年目は日額2,500円)
病気やけがで手術を受けたとき	(2年目以降) 1回につき 50,000円 (1年目は1回につき25,000円)
死亡したとき	50万円 100万円 200万円 300万円 の 4つのコースからお選びいただけます。

●ここに記載されている内容は共済商品の概要を説明したものです。詳しくはパンフレット等をご覧ください。

■新しく組合員になられる方へ（出資金について）

全労済は消費生活協同組合法にもとづき、非営利で共済事業を営む生活協同組合の連合会です。生活協同組合は、組合員の参加により運営されており、出資金をお支払いいただければどなたでも都道府県生活協同組合の組合員となることができ、各種共済に加入できます。新しく組合員となられる方には、生活協同組合運営のために出資（1,000円以上）をお願いしています（出資金は1口100円で、最低1口以上の出資が必要です）。出資金は、加入される共済の掛金払込方法に応じて下記の取り扱いとさせていただきます。

掛金の払い込みが月払いの場合 1,200円（毎月100円×12ヵ月）

■ご契約者の皆さまへ

全労済は、将来の支払いに備えて、厚生労働省令に定められている共済契約準備金をこえる十分な積み立てを行っています。また、資産運用のリスクを適切に管理し、健全な資産運用を行っています。全労済は、これからも引き続き健全な経営に努めていくとともに、情報開示を積極的に行っています。また、個人情報保護法をはじめ関連する法令等を遵守し、お預かりしたお客さまに関する情報について厳重な管理体制のもとに正確性・秘密性・安全性の確保に努めています（※詳しくは各都道府県全労済にお問い合わせください）。

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。すでに組合員は全国で1,390万人。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

詳しくはお近くの全労済までお問い合わせください。

盛岡支所 TEL:019-622-0631
一関支所 TEL:0191-26-2678
釜石支所 TEL:0193-21-1129

北上支所 TEL:0197-65-0160
奥州支所 TEL:0197-23-7632

保障のことなら

全労済

全国労働者共済生活協同組合連合会

岩手県本部

岩手県労働者共済協同組合



ハビネス共済会は、
出場する小学生を
応援します！

2009年
開催日 9/27(日)
会 場 アビオ
(岩手産業文化センター)
主 催 IAT岩手朝日テレビ

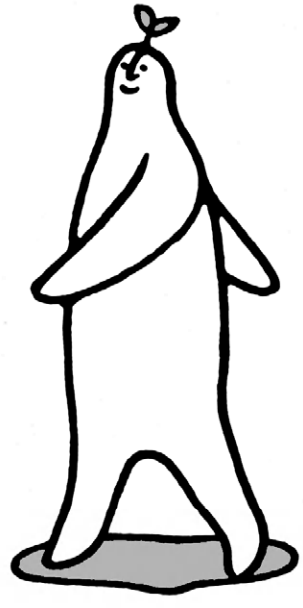
特別協賛
ハビネス共済会
財団法人 岩手県民共済会
盛岡市山王町10番6号山王ハイッ
TEL 019-652-3195/FAX 019-654-7262
☎0120-41-3816



アパートを借りたい…
マンションを買いたい…
賃貸住宅、不動産売買等のことなり、
お気軽にご相談ください

きょうさいライフ不動産事業部
有限会社 きょうさいライフ 宅地建物取引業：岩手県知事免許(1)第2323号
〒020-0821 岩手県盛岡市山王町10番6号 TEL.019-626-0002/FAX.019-626-3901

「借金問題を
解決したい人」も、
「借金問題が
解決した後のこと」も、
信用生協にご相談ください。



暮らしに必要な生活資金のご相談は、

☎ 019-653-0001
(月～土曜日 9:00～17:00)

ホームページ <http://www.iwate-cfc.or.jp/>



岩手県消費者信用生活協同組合

盛岡相談センター ☎ 019-653-0001
〒020-0874 盛岡市南大通1-8-7CFCビル2F

●北上相談センター ☎ 0197-61-0133
●釜石相談センター ☎ 0193-31-2070
●一関相談センター ☎ 0191-26-6031

http: www.iwate-cfc.or.jp/

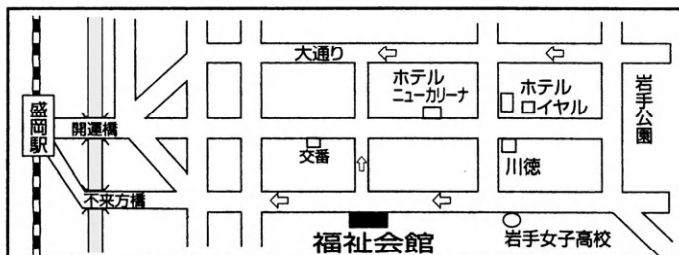
※岩手県内在住の方、もしくは勤務している方であればどなたでも加入でき、上記の事業を利用できます。

相談からはじまる、最初の一步。

自治体提携消費者救済資金貸付制度/生活再生資金貸付制度実施

各種宴会・パーティー・会議・研修会・セミナー

お問合せ・お申し込みは またはフリーダイヤル
019-653-8111 0120-888374



Party and Talk

福祉会館

財団法人 岩手労働福祉会館
〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原2-2-32

利用
して

安心 安全 便利 納得

学校生協

3つのキーワード

安全・安心

環境

たすけあい

岩手県学校生活協同組合の



●●● 学校生協に加入して利用しませんか？

自宅でゆっくりチラシ
を見て注文。
商品も自宅に届き
ます。

配達料金1ヶ月
…400円

商品をご自宅まで
配達します。
生鮮共同購入や
カタログも
ラクラク
お買い物！



お問い合わせは

岩手県学校生協
企画部



0120-112246 (無料)

くらしに役立つ最新情報は
<http://www.igcoop.or.jp/>